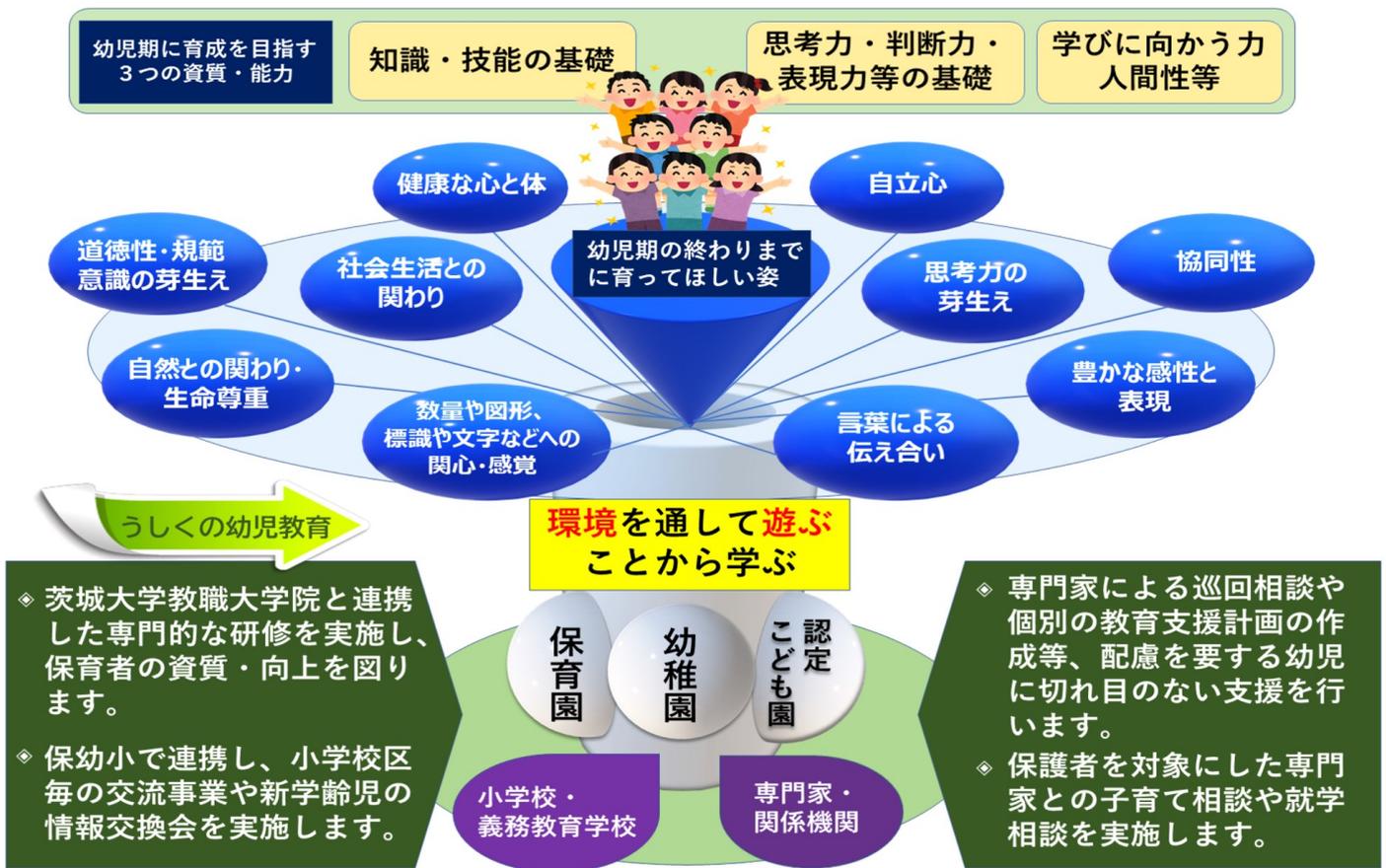


うしくの幼児教育

子どもが成長する過程において、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。幼児教育は、幼稚園、認定こども園、保育園などの施設でも行われています。牛久市では、公立・私立や施設の種類に関わらず、市内全ての幼児教育施設において質の高い幼児教育を行うことを目指して、茨城大学教職大学院の協力のもと、保育者の専門性を高める研修や子どもの発達に関する相談体制の充実等を図っています。



幼児教育とは、環境を通して遊ぶことから学んでいくものです。保育者は、環境の中から生まれる子どもの体験活動を大切にしています。子どもは、意欲をもって取り組み、さまざまなことを見出し、試行錯誤しながら遊びます。保育者は、子どもの学ぶきっかけができるように環境を整えて見守り、個に応じた支援をします。つまり、子どもは環境を通して遊ぶ中で、幼児期に育みたい3つの資質・能力を身に付けているのです。また、左の図のように、幼児教育で身に付けた力は小学校で培う学力の基礎になります。